

振替・東京 6 6 6 7 番 TEL (263) 0913

例会・班会・討論会をひらこう

例へば筆蹟のヘリ・ミラーの言葉のなかに一枚のポートレートがおかれているが、この写真から、いままでのポートレート写真のあり方について、いろいろの論議をつくりだしていくことができるだろうし、ほかの写真との比較のなかで、ポートレートではなができるか、また、なにをすべきかといった内容と表現の問題に細部にくわつて検討していくことも可能である。

う。引用文をすべて私たちをとりまゝ、現実について考えることも、二九六五・六六年の状況のみを、直接個のあり方、サークルのあり方を論じること、おおいに有益であるにちがいない。例へば合宿のあり方について、あるいは精神の作業のあり方について、今までのサークルの「倒錯状態」についてこそ議論は具体的に、あまたもものことをあきらかにし、私たち自身の現実をかえつた

を、毎日くりかえしくりかえし厳密に検証し、さらに全体のかなかにしめてくる問題にむかひ、私たちの日常生活のなかに積み重ねていく作業をおこなわなければならないだろう。（この掲載記事の内容はさらに綿密に検討し、後日発表したいと思います。本部代表委員会）

久野収氏の見解

大正一六五二

状況一九六五について

また、七六頁と七七頁におか
れている夜の写真のようであ
り、一方はわかるが、方はわか
らないという意見がすぐである
が、その理解のしかたが、はた
して正しいのか、そむける写真
には、たしかな問題にたいする
アプローチがあり、追求のほげ
さがあり、しかもがた内容をと
らえている。そのちがいはな
めに、明確におこなわれてい
ない、わけはならないだろう。いま
ちをとりま、現実がかつてない
困難な問題が重層した世界にな
っている。この未踏の課題に私
たちは写真で、どのようにお
みわいていけるのか。

新人生はこのキャンペーン活動
において、この「状況一九六五
年」について、ききこの活動が
おこなわれている。

学習院大学教授久野収氏は、四
月十五日、中央大学文連（文化サ
ークルの連盟）主催の新人生オリ
エンテーションの講演の中で、キ
ャンペーン「状況一九六五」を
とらえ、文化サークルのあり方
について見解を述べられた。そ
の中心は、サークル内での活動
におわりの現在の文化サーク

總括と課題

全日本學生會連盟主催リスターズ會館が、二月五日から七日まで關東・中部・關西合同で浜松にて、また三月十日から十四日まで中國・四國・九州合同で富山にて行なわれた。そこでは、參加者全員が、写真を前にして討論を行い、また各サークルにおける新人生対策、例會の方法等をも行い、各個人における既成の概念を打破すべく、討論がなされた。

先づ初めに、参加人数と作品数の数を分類するとう事は、いかなる事を意味するか云々と、各個人が、写真と云うものに、写真に対する考え方も、今までよく事が出来る。

卷之四

い会って、各個人の作風に対する
感し方、判断の根拠となすもの等
々をつきつめたり、にらめたりす
る事を基として、話合を進めて
ら、より明確になつてゆき、次の
段階に於ける各サークルの基本た
るべき年間企画も、そのサークル
にとつて、本質的に、何が大切で
写真を前にして、討論が行なわ
れねばならないが、その場合に於

コラムの原稿
募集のお知らせ

の意識改革を、自分自身の方でなしとけていく——そのためのしくみと運営の方法が発見されたのである。……この会宿に参加した人ならば、だれ一人例外なく、三泊四日の日程をこえて、四泊五日にもちこまれたこの会宿の時間のなかで行なわれた激烈な精神の作業とその持続を、自分のなかで、ほとんど肉体的にといつてよいほど

今号から、コラムを設けました。ここは、会員の発言の場として、文学、絵画、映画、その他サークル論や、あなただけ考えている最もとも切実な問題、等について、会員で利用して行こうと思つてゐます。そして寄稿して下さい。

・原稿用紙二枚内外
・東京都武蔵野市吉祥寺

H・ミラーを読もう

はてた。だから、われわれが激亡するのは当然なのだ。われわれが浮浪者同様の扱ひをしてきた『劣等』人類にとって代えられるのは当然なのだ。彼らはすくなくとも大地との接觸をうしなつことは決してなかつた。彼らは根をおろし、

僕の抱き出した断片は、ミナソの極く一部か、もしくは、彼の言いたいことと、少しずれているかも知れない。

とにかく一読をおすすめします
H・ミナソ―
「冷房装置の悪夢」より引用

以前の問

写真に傾かず、我々、文化部に
属し文化活動をおし進める者は、
もつと民主的なことの決め方な
ど、はじめから探りなかつた。私
たちの行為はいつても、現実をか
え、自己をかえるものに行なわな
ければいけないのだからうか。

して、高校時代に写真によって自分というものの、足跡を残す

現在、高校写真界の問題として、会員たちの漠然とした「写真活動」、つまり例会があるから写真を撮る、記念写真を頼まれたから

いて、写っている「もの」(被写体)「が何であるかが解る作品であれば受入れようとするが、(つまり真にその作品を理解すると云う意味のものではなくて、ただ単に、写っているものが何であるかが解る程度のもの)しかし、写っている「もの」が、今まで見た事も無いような作品に対しては、その作品自体、何が何だかさっぱり解らないとし、受入れようとしな

い。が、このような態度の人等は、物事に対して視野が小さいし、発展すると云ふ事をも、自らわすれているのではなからうか。今までに自分が見た事も無いような作品に対しては、決して目をそらせたり、逃避してはならない。我々は、そのような作品でこそ自ら進んで取り組んでゆかねばならない。逆に、簡明の写真であれば、理解したように思われるが、はたして、そのようなものか。写っているものが解らない作品でらあれば、一生解らないか云々と、決してそのような事でもない。解らないと思われる作品に対しては、写っている「もの」(内容)が、何であるか。そして、その事が、見る人にとって、いかなる事を意味しているものなのか。そのような解らないと思われる作品に關しては、日常の写真を見る上に於いて、いかにして取り扱つてゆべきものなのか。そして、さまざまな物事と関連しながら、写真ととかわり合つてゆく事によつてのみ、そこから理解されてゆくものである、理解し、把握出来るものである、口が見つかるのではなからうか。このような事は、まさに作品と、読者の日常に於ける、課せられた対決の連続であると云えよう。

撮り、焼き、人々に送る。(無論これも悪くはない。)しかし、我々は写真サークルに於いて、作画活動に励む者にとって、この例え行事があるから写真を撮るというのでは、意味が無いのではなからうか。我々は写真を撮るに於いても、あくまで「個人」に挑戦する態度で作画活動を行なわねばならない。この場合に於いて写真サークルはその会員に対して広く話し合いの場を提供すべきである。我々は写真活動、努めるとともにサークル活動(部活動)に於いても、どこどこに進出するものではない。というのは、高校時代には数々の制約があり、また、やってはけない事も多い。この時期にいる我々高校生は、写真を通して、現代の自分(個人)がおかれている立場(現状)を把握して話し合い、さらにそれらを基に作画活動という形でアタックし、自己変革がなされねば意味が

たればならない。学生という特権にあまなるのではなく、それらをつまみ活用し、自分というものを知らずにはしなねばいけな

い。ようするに、現在、高校写真サークル員がなまなければならぬ事はまず自分の状況をとらえる事にある。その時点が出発点となる。

高校写真サークル員は、この「写真」を通じてより強い「個人」となるために、作画活動、連盟活動、支部活動をすすめていく。この短い三年間を写真を通して、サークル活動を行なうことは決して、無意味なものではない。我々々は日夜、現実(自己の置かれて

る立場)を見つめ、将来のためにより強い「個人」の確立を目指して、この活動に参加し、最終的に我々自身を強化し、クラブを発展させ、写真連盟や写真サークルを推進するな、ましい個人になつてみたいのです。(T・Y)

電話(567) 8401

Nikon 日本光学工業株式会社
東京都中央区日本橋通・西川ビル
●カタログ送呈ノ紙名を明記

発売元 株式会社 コパル

活動を目指して

第一步

て、実に重要なエピソードメーキングなこととなるであろう。それは二つの面で我々にとって大きな意義をもつと思う。先ず第一に、四

泣き止むの間の歩のような憂鬱状態に、部員が丸となってそれに耐え克服してきたこと。第二に、既成の写真に対する概念がこころなげに打ち砕かれ、真の自分と写真との関係が感じとしてつきたこと。第一に関しては、連日、朝から深夜遅くまで、最後の夜は徹夜となったのであるが、その間食事時間と食後の休憩時間三十分位があるだけで、あとはすべて写真を通しての討論会であった。途中、部員から「もう少し、せめて散歩する位の時間がほしい」という声が上がったが、「我々は日常の生活において、絶えず自分をあまりにも大切にすきてはいないだろうか。本当に自分の限界状況みたいな所で齒をくいしって頑張ったことがあるだろうか。睡眠時間も少なくて

夜の明けにくいを感じている部員は、誰一人として不満の顔をしていない者はなく、皆、この強行なスケジュールを完遂した満足感や味づいているようであった。反省会のとき、女子部員がとうとう「感激しました」と言い出してしくしく泣き出してしまった。皆同じように思っていたであろう。しーんとした雰囲気の中で、一人々々の部員が合宿が自分に与つて大変意義深かったことを語つていったのである。またある部員は感想文の中で「今度の合宿は自分の人生において貴重な体験となるであろう」と述べている。

第二に関しては「自分の今まで、写真に対する考えがいかに甘いものであったか、また写真をやるのを

ということが、これ程自分にとって意義あるものであるとは知りませんでした」という部員の声に代表される。写真が解る解らないではなく、自分と写真とのかわりあいは本来こうあるべきなのかということを部員全体が感じとって帰っていったようである。今度の合宿は一年生が大部分であった。彼らが今後部の中堅となる、その意味で我々のサークルも文化サークルとしての姿に向い始めたといえる。確かにそれは表面的、部分的なサークル変革ではなく、根本的、本質的な部員の意識の面においての変革である。

我々学習院大学写真部は過去
年連続して全日コン、共同制作

門において、最優秀学校賞を受けたことがあるが、これからもしられるように、他のどの大学にも劣らない程、共同制作とサークルの関係は密接であつた。サークル活動として共同制作行なうために部員が受けていた。雪も他の大学に負けない位であつた。そしてなおいけなうことば内部にしろとそれに気がつかず、まるで当然のことのように思ひ込んでいたことであつた。今こそ従弟の共同制作の問題点について詳細を述べるのは、牧教的に無なので省略せてもうが、我々が関東学生写真連盟主催のシンジウム（共同制作の問題点について、サークルについての討論の結果は共同制作というテーマで小本となつてゐる）、全吉

部五。た題一ののか、決、てま
催の八ッ岳台宿、浜松の台宿等を
通して、すなわち外部との接触を
保つことにより、その密着なるも
のに気がついたのである。気がつ
いて、それを部内に持ち込むこと
は、これは、部員が共同制作に関
して当然のことのように思い込んで
いるだけに相当の努力を必要とし
た。無気力沈滞の粘着状態のサ
ークル員に対し、我々は共同制作
について論じる前に、写真とはそ
れ程関係のないような部員に対し
なければならなかった。文化運動
の一端を荷負う文化サークル、個
人の変革を目指し、ひいてはサ
ークルの変革創造の場において、共

ぶき道

最初に述べたように、合宿が
々の予期以上の成果が得られた

各学校の新生活指導は、今までに進行中のことと思ひます。そしてそのクラブの基本方針や行なつた方法などによつて、その成果が現われる時期は様々だと思ひますが、

新生活指導の総括をレポートして下さい。

自分のクラブでは、一応それが出た。という所がありましたらそのクラブの基本方針とそれによつてどのような計画を立てどのようにそれを展開し、どのような成果を修めたかと、いふこととどんな問題に直面し、そして来年はどのような形で計画するか等をレポートして下さい。

まづは決めま
せん。随時本部
あてに、寄稿してください。

そのレポートは、本部においてデキスト、来年度の指導法等の、資料にします。(本部)

「親睦」を目的としたり、まるでお茶飲会みたいなことで、サークルの価値ありと雄叫びを發するより、

であるが、これには恵まれた要素がかなりあった。まずコーチとして、福島辰夫氏が多忙中にもかかわらず

わらず、終始積極的に動いて下さったことがある。その他にも、宿のごと、祖父の葬式もそこそこに参加した岩本君等、合宿前に悲戀的材料がたぐさあったことが、かえって皆を結束させたこと、今思ふは至てが幸いだった。しかし、我々にはこの幸いに酔っているわけにはいかない。この本質的変革をより確かなものと、文化運動として、個の確立、確立された個の集まりとして何が出来ると、集團としての運動を、個を抹殺することなく、むしろ個をいっそう確立させるようにしながら、いかに展開させていくかを絶えず確めながら押し進めていかなければならぬ。このようなことがしつかりと成果たされてこそ、我々は現実の獨立の社會の問題を「プロジェクト」

感想はと聞かれれば

たものと一緒に写す。今まで一つのレールの止に乗せ、今までの写真に對する既成概念が目の前でガラガラと崩れ去つたのです。後に残るのは荒廃とした原爆ドームの如き残骸でした。一瞬これからの写真をなすべきのか、どんな写真を撮ればよいのか、写真をどう見て行けばよいのか途方にうたへてしまひました。しかし今まで我々の頭上に重くおおいかがぶつていたような、そして何となく払おうとして、払い除け得なかつた暗雲が一時にふきとんでいつてしまつたやう気がします。我々は今はじめて写真と言うもののスタートラインだと思ひます。

島にて開かれた全日リ

ティンクの悪いものは全面的にオミットし、その人が何を考え、何を言おうとしていたらかと云う事は考慮しないうちにオミット

—●●●—

客観的に見てそれだけで終わってないことです。具体的に言えば、ゼロ・トレートの場合、まずピンの甘いものや目に光がないもの、カッ

かたがたきつていながら、それだけ
いたにすぎず、なせきれいにけり
かつても深く考えようとす
った事も今度は反省してない
し。私達もこれからは形式を脱
し内容を重視していきたいと固
めてます。又最後に行なわれ
入生対策も大変よくなったと感
じます。以上リーキヤンに参加

「第二」の事だ。我々の間に二重

以前から、われわれの

ていて、写真・そのクラブ活動に
いて考え直す必要を感じており
クラブ内で討論してはいたが、非
常にむずかしい問題であった。そ
んな時に開かれたリーダーズ会
に参加でき、大変有意義であつた
関東、中部、関西の多くの学校か
ら密り集つて、写真・クラブ活動

思つて、新省に對する意見の交換ができ、井の中のかみずであつたわれわれに反省させる機会を与え、考えさせるとは、今後取り組んでいく個々人クラブ、若くは大きなクラブに

を企画していただくではないか。
 (藤田 修一・東代 清隆
 関西学院大学)

寄稿されました方にお礼を
 申し上げます。なお、紙面掲
 載ならびに編集の都合によ

り、原稿の一部を修正しました事をお詫びするとともに、敬称を略させていただきました。

(編集責任者)

写真活動の「見て」「考える」「撮ろう」とすること―映像によって、いろいろのものを感得考えてゆくために、より多く、写真(映像)に接する機会をつくり、個人の制作活動とサークルの組織的な学習活動に、積極的に役立て

よう。
次号より、国内・海外の写真集の紹介記事(写真入り)を、掲載してゆきたい。

TOPCON RE2

■ REオート トプコール F1.8 58mm付
現金正価 ￥39,800
ケース ￥2,000

今話題のTTLを
4年前、世界に先
がけて発売!!!
その独自の
ミラーメーターは
Young Generation
の注目を浴びてお
ります。

トプコンをお持ちの方には
トプコンカメラ相談室が
ご利用いただけます。

 **東京光学機械株式会社**
営業部／東京都中央区銀座東7-6 石田ビル 営業所／大阪・名古屋・福岡・札幌